

日本を元気にする会 綱領

2015年1月

我々は日本初の、政策を国民と共に決定する政党である。

世界で様々な政治体制が構築されてきた中で、自由・人権・平和などの普遍的な価値を持続可能にするためには、国民主権の民主政が最もふさわしいシステムであることは論を俟たない。

しかし、民主政の中においても様々な形態があり、各国の長年に渡る取り組みをもってしても、未だに完成形に至っているとはいえないのが現状である。

我が国においても間接民主制が採用されて定着をみているところではあるが、最近ではそれに起因する多くの問題が浮き彫りになってきている。

「政治不信」「若者の政治離れと低投票率」「政党政治の矛盾」「行政と議会の暴走」

このままでは政治家と官僚の独善は増幅し、国民の政治への諦めと無関心が更に広がってしまうだろう。

従来 of 民主主義国家では、国民一人ひとりが得られる情報と知識が十分ではなかったこと、その意思を集約する仕組みの形成が困難であったことから、投票によって一部の政治家に権限を与える間接民主制を採用してきた。

しかし、時代は劇的に変化し、インターネットの発達によって時間的、物理的な制限は極小化され、国民一人ひとりが政策立案からその決定に至るまでのプロセスに参加することが可能になったのである。

今こそ、国民の集合知、責任、そして想いを政治に反映させる時である。

日本を元気にする会は自由経済、小さな政府、機会の平等、セーフティーネット確立、そして平和の為の主導的外交などの政策理念を基本としながらも、そこに辿り着くまでのロードマップ作り、特に重要となるマイルストーンの設定においては国民の意思を確認し、対話しながら進めていく。そして、従来 of 政治が先送りしてきた課題の解決に取り組み、自立自尊の精神で日本の元気を取り戻し、最も幸せで尊敬される国として世界の礎になることを最大の目的とする。